

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式2】

No. D-49

部門名： 校内研修プログラム開発・実践部門	エントリー名： 盛岡市立上田中学校
--------------------------	----------------------

活動名：
学びに向かう力を育む授業 ～生徒が主役の授業をつくる～

解決すべき課題： ※活動を行う前に、課題や目標をどのように設定しましたか？視点などを含めて記載してください。また、当機構主催研修終了者は、研修から何を学んだかに触れつつ記載してください。

本校の生徒は、学力調査等から分析すると、全国平均より高い平均値であるが、質問紙等の結果から、自己肯定感や物事に粘り強く取り組む態度が低い実態がわかってきた。授業の度に、自分たちで課題を解決する経験を積み重ねることで、自己肯定感や自己有用感を醸成しながら、学びに向かう力を育成できると考えた。

目標・方針： ※課題を解決するためにどんなストーリーやシナリオを構想して、活動内容を組み立てたのか、記載してください。

まず、自ら課題を解決していくための授業をつくるために、教師の授業の「設計力」と「構成力」を高めるための校内研究会のあり方を見直す必要がある。また、生徒自らの力で課題を解決するためには、粘り強く取り組む力も必要であるため、学校の教育課程を見直し、学校と地域、保護者を含めて生徒を育成する体制の構築に取り組む必要がある。

本校では、3年に2回の頻度で学校公開を行っている。そのたびに多くの視点で頂いた意見も基にしながら、自分たちの授業改善につなげていく。

活動内容： ※目標・方針に基づいてどのような活動を行ったか、また、複数の活動を展開した場合はその位置づけや関連性を記載してください

年間3回の研究週間を設け、教科と領域、特別支援の授業について重点的に授業の「設計力」と「構成力」を向上させるための校内研究会を行い、校内研修を進めた(写真1)。2018年度は特別支援部会と9教科を3つにわけた部会、2019年度は3領域(特別活動・道徳・総合)部会と特別支援部会に必ず所属し、教員全員がいずれかの研究週間で授業をするようにした。

授業研究会について、授業の「設計力」と「構成力」の視点から授業改善を図ることができるよう、『授業マスターシート』を開発した。

- ①研究授業では、参観者が『授業マスターシート』(資料1)を用い、授業中に客観的に評価をつける。
- ②授業後に、授業の設計について検討する授業研究会をもつ。
- ③数日後、授業の構成について、『授業マスターシート』を持ち寄り、授業記録(動画)を見ながら、全員で評価を共有する。
- ④撮影した動画は、指導案等資料とともに、DVDライブラリとして保存する(写真2)。

活動の成果： ※課題設定に対して、どんな影響、変化あったか、参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

研究週間においては、各グループや領域で授業を参観し合うことで、客観的に評価ことや授業の見方をスキルアップすることができた。また、全体研究会や学校公開を通して、「生徒が主役の授業」の共通認識が図られたこと、助言や意見をいただき、蓄積することができた。

『授業マスターシート』を用いた授業研究会を進めることで、授業力を高める視点を確認することができ、授業者の授業改善が進んだ。

これら授業改善を進めていくうちに、生徒が自分で課題を設定し、粘り強く課題に取り組む姿勢が見られるようになった。その結果、生徒の自己肯定感や物事に粘り強く取り組む態度に関わる質問項目において、改善が見られた(資料2)。

アピールポイント(アイデアや工夫)： ※3～5つ程度、箇条書きしてください

- ・教師全員が研究授業を行う研究週間の設定
- ・全体研究会や学校公開による、共通認識や助言等の蓄積
- ・『授業マスターシート』を用いた授業研究会と授業改善

<写真、図表添付欄>

資料1 授業マスターシート

授業者名		授業マスター評価シート(領域編) ver.5		授業NO.
科目	段階	項目	プロフィール	特徴
1	つかむ	生徒は、この時間で、何を考えればよいか(どんなことを考えればよいか)何をすればよいかを自分事としてとらえている。	課題把握と見直し 0 3 7 10	
2		学習プロセスを形態、活動内容、時間などを捉え、どのように学ぶのかを理解している。	プロセスの見直し 0 3 7 10	
3	つたえる	生徒固有の経験などの根拠をもとに自分の考えをまとめ、主体的に学習に取り組んでいる。	主体的な学び 0 3 7 10	
4		自分の考えを発表したり、友達や先生の考えと比較しながら聞いたりして、自分の考えを強化・修正している。	思考の組み合わせ 0 3 7 10	
5		分からないことや納得いかないことを友達や先生に質問したりつぶやいたりしている。	ストップ発言 0 3 7 10	
6		学習課題や課題解決した内容を、理由や根拠とともに、一人一人がまとめている。	課題解決 0 3 7 10	
7	つなげる(学びの自己対話)	自己評価・相互評価等により、本時の学習の成果を見取ることができたり、分かったことや疑問が残ったことなどについて、自分の言葉で説明できたりしている。	評価・内容の振り返り 0 3 7 10	
8		自己の姿勢を意識し、達成感や有用感を自覚できるよう工夫されている。	自己の振り返り 0 3 7 10	
総合評価				

写真1 全体研究会



写真2 授業マスターライブラリ



資料2 自己肯定感や物事に粘り強く取り組む態度に関する調査結果の推移

